



# 三菱電機<br /> ビル<br /> 空調管理システム<br /> MA コンパクトリモコン PAC-YT52CR

据付工事説明書

販売店・工事店さま用

本据付説明書では、三菱ビル用空調システム、シティマルチエアコン室内ユニット(「-C」タイプ以降) と共に利用する MA コンパクトリモコンの据付方法について説明します。 リモコンに付属されている説明書および本据付説明書をよくお読みのうえ、据え付けてください。こ れを守らない場合には、機器が損傷することがあります。 空調機ユニットの結線方法および据付方法については、空調機本体の据付説明書を参照してください。 据付工事完了後は、本説明書をお客さまにお渡しください。

# 安全のために必ず守ること

・この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ、据付けてください。

• ここに記載した注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ずお守りください。

取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うこと が想定される危害の程度 取扱いを誤った場合、使用者が軽傷を負うことが想定され るか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程 度

• 図記号の意味は次のとおりです。







(水ぬれ禁止)



(ぬれ手禁止)



(一般注意)



(一般禁止)



0

(感電注意)

(一般指示) (アース線)



•お読みになったあとは、お使いになる方に必ず本書をお渡しください。

お使いになる方は、本書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事をされる方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

# ⚠警告

# 電気配線工事は「第一種電気工事士(工事条件によっては第 二種電気工事士)」の資格のある者が行うこと。

# 一般事項

# <u>∧</u>警告





∕₹注意



●感電・故障のおそれあり。

# 部品端面に触れないこと。

◆けが・感電・故障のおそれあり。



使用禁止

作業するときは保護具を身につけるこ と。

けがのおそれあり。



# 据付工事をするときに



可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏え いのおそれがあるところにコントロー ラを設置しないこと。 可燃性ガスがコントローラの周囲にたまる

と、火災・爆発のおそれあり。







## コントローラの据付けは、販売店または 専門業者が据付工事説明書に従って行う こと。



指示を実行

・感電・火災のおそれあり。

- "パチッ"と音がするまではめ込むこと。
- はまっていない場合、製品が落下し、けが・損傷・故障のおそれあり。

# 電気工事をするときに



電源配線は信号端子台に接続しないこと。

機器損傷・故障・発煙・火災のおそれあり。



端子接続部に配線の外力や張力が伝わ らないように固定すること。

◆発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。





電気工事は第一種電気工事士(工事条件 によっては第二種電気工事士)の資格の ある者が、「電気設備に関する技術基 準」・「内線規程」および据付工事説明書 に従って行うこと。電気配線には所定の 配線を用い専用回路を使用すること。 \*電源回路容量不足や施工不備があると、感

• 電源回路容量不足や施上不備かあると、感 電・故障・発煙・発火・火災のおそれあ り。



- 4 -

感電注意

### 電源には過電流遮断器、および漏電遮断 器を取り付けること。

•過電流遮断器はユニット1台につき1個設置 すること。



 ・感電・発煙・発火・火災のおそれあり。< コントローラのみ>

正しい容量のブレーカー(漏電遮断器・ 手元開閉器<開閉器+B種ヒューズ>・ 配線用遮断器)を使用すること。



◆大きな容量のブレーカーを使用した場合、
 感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。

電源配線には、電流容量などに適合した 規格品の配線を使用すること。

漏電・発熱・発煙・発火・火災のおそれあり。

D種接地工事(アース工事)は第一種電 気工事士(工事条件によっては第二種電 気工事士)の資格のある電気工事業者が 行うこと。アース線は、ガス管・水道 管・避雷針・電話のアース線に接続しな いこと。





・感電・ノイズによる誤動作・発煙・発火・
 火災・爆発のおそれあり。





**うにすること。** ・ショート・漏電・感電・故障のおそれあり。





### シールド線を使用する場合、シールド部 の絶縁処理を行うこと。

ショート・感電・故障のおそれあり。



# 移設・修理をするときに

# ⚠警告

コントローラの分解・改造はしないこ と。移設・修理は販売店または専門業 者に依頼すること。

- る
- けが・感電・火災のおそれあり。

# お願い

据付・点検・修理をする場合、適切な工具を使用してくだ さい。

•工具が適切でない場合、機器損傷のおそれあり。

### 三菱電機空調管理システム以外に使用しないでください。

・他の空調機管理や別の用途に使用した場合、誤動作のお それあり。

### 静電気対策を行ってください。

• 製品が損傷するおそれあり。

コントローラを病院・通信・放送設備がある所に据え付け る場合は、ノイズ対策を行ってください。

- ノイズにより医療機器に悪影響を与え、医療行為を妨げるおそれあり。
- ノイズにより映像放送の乱れ・雑音が生じるおそれあり。
- インバーター機器・自家発電機・高周波医療機器・無線
   通信機器などの影響によるコントローラの故障・誤動作のおそれあり。

電源配線と信号配線を結束したり同じ金属管に収納したり しないでください。

• 誤動作のおそれあり。

コントローラのケースから基板保護シート・基板は取り外 さないでください。

•故障のおそれあり。

ネジを締めすぎないでください。

損傷するおそれあり。

マイナスドライバーをコントローラのツメにはめ込んだ状 態で強く回転させないでください。

ケースが損傷するおそれあり。

直射日光のあたる場所、または周囲温度が 40 ℃以上・0 ℃以下になる場所にコントローラを据付けないでください。

●変形・故障のおそれあり。

制御盤などの扉に取り付けないでください。

◆振動・衝撃が加わると、落下・故障のおそれあり。

コントローラの配線はクランプにはめて固定してください。

•固定していない場合、端子台に直接力が加わり断線のお それあり。

上ケースがはめ込めないおそれあり。

コントローラの配線を端子台に接続する際に、圧着端子を 使用しないでください。

• 基板と接触し故障のおそれあり。

カバーと接触しカバー損傷のおそれあり。

コントローラのコネクター接続後、ケースをぶら下げない でください。

• 断線し、動作に支障をきたすおそれあり。

各部の名称と付属部品

箱の中には下記部品が入っています。

1

| 品名                          | 個数<br>(個) | 外観    |
|-----------------------------|-----------|-------|
| リモコン(上ケース)                  | 1         | 右図 ※1 |
| リモコン(下ケース)                  | 1         | 右図 ※2 |
| 十字穴付きナベネジ M4×30             | 2         |       |
| 木ネジ 4.1×16<br>(壁に直接取付ける時使用) | 2         |       |
| 据付工事説明書(本書)                 | 1         |       |
| 取扱説明書                       | 1         |       |



上ケース (※1) と下ケース (※2) は、はめ込まれた状態で工場出 荷されます。 リモコンケーブルは付属していません。

## 2 現地手配部品 / 必要工具

#### (1)現地手配部品

下記の部品は現地にて手配してください。

| 品名   | 所要量 | 備考  |
|--|-----|---|
| スイッチボックス: 1 個用<br>(JIS C8340)                  | 1   | 壁面に直接据付ける場合は不要です  |
| 薄鋼電線管 (JIS C8305)                              | 必要量 |   |
| ロックナット、ブッシング<br>(JIS C8330)                    | 必要量 |   |
| モール (JIS C8425)                                | 必要量 | リモコンケーブルを壁面に這わす場合に必要です  |
| パテ   | 適量  |   |
| モリーアンカー  | 必要量 |   |
| リモコンケーブル<br>(0.3 mm² 2 心シース付ケー<br>ブルを使用してください) | 必要量 | 以下の別売ケーブルも使用できます。<br>PAC-YT81HC(10m)、<br>PAC-YT82HC(20m)※3<br>シティマルチ S(PUSY-P80,112 形)と接続し、リモコ<br>ン配線の総延長 (※4) が 10m 以上で使用する場合はシー<br>ルド線(MVVS:0.3mm <sup>2</sup> 2 心ケーブル)を使用してくだ<br>さい。(※5) |

※3 シティマルチ S(PUSY-P80,112 形)の機種と接続する場合は使用できません。 ※4 室内ユニットの MA リモコン用端子台 (TB15) 間の渡り配線も含みます。 ※5 シールド線のアースは室内ユニットの MA リモコン用 S 端子に接続してください。

#### (2)現地必要工具

- ・マイナスドライバー(刃幅:3~5mm)
- ・ナイフまたはニッパー
- ・その他一般工具

### 3 伝送線配線

リモコンの配線は、シティマルチエアコン(「-C」タイプ以降)に接続する場合です。システム構成 によって配線方法が異なりますので、使用するシステムをご確認ください。 空調機本体への配線および空調機本体の据付工事に関しては、空調機本体の据付工事説明書をご参照 ください。

#### 1. マルチエアコンシステムとの接続

図中の(1)~(4)は、以下の説明文(1)~(4)と対応していますのでご確認ください。



- (1) リモコン 室内ユニットの配線
  - ・室内ユニットの MA リモコン用端子台(TB15)へ接続してください。
  - ・端子台に極性はありません。リモコン背面下部にある端子台に接続してください。
- (2) グループ運転する場合 (グループ 03 および 04)
  - グループ運転する室内ユニットの MA リモコン用端子台(TB15)同士を渡り配線し、そこに MA リモコンを接続してください。
  - ・上図のようにシステムコントローラと併用する場合、システムコントローラ(上図では集中コントローラ)側でグループ設定が必要です。
- (3) 接続可能リモコン台数(グループ 02 および 04)
  - ・主リモコン1台、および従リモコン1台をペアリモコンとして使用することができます。

- (4) ロスナイまたは外気処理ユニットと連動させるためには、リモコンを使って以下の設定を行いま す。(連動の設定方法の解説は、(<u>「換気設定</u>)の項を参照してください。) ロスナイまたは外気処理ユニットのアドレス、および連動させたい全室内ユニットのアドレスを 設定します。
- (5) リモコンケーブルの総延長
  - ・総延長は、最大で200mです。使用するリモコンケーブルについては、「2.(1)現地手配部品」の リモコンケーブルを参照してください。

#### お願い



| ロスナイまたは外気処理ユニットと連動させ |
|----------------------|
| るときには、必ずグループ内の全室内ユニッ |
| トのアドレスとロスナイまたは外気処理ユ  |
| ニットのアドレスを連動設定してください。 |

### 4 据付方法

本リモコンは壁面に据付ける仕様となっています。「スイッチボックスを使用する」または「壁面に 直接据付ける」が選択できます。「壁面に直接据付ける」場合、配線取り出し方法を「背面取出し」 または「上部取出し」から選択できます。

#### (1)据付場所の選定

リモコン(スイッチボックス)を以下の条件を満たす場所に据付けてください。

- (a) 据付け面が平らな所
- (b) リモコンが正確な室温を検知できる所 室温を検知するセンサーは、室内ユニットとリモコンの両方に付いています。リモコンの温度センサーを使用して室温を検知する場合は、主リモコンに設定したリモコンが室温を検知します。 この場合、下記の事項を守ってください。
  - ・正確な室温を検知するために、リモコンは熱源の影響を受けない場所に据付けてください。
     (直射日光やエアコンの吹き出し空気が直接あたる場合、リモコンが正確な室温を検知できません。)
  - ・リモコンは部屋の平均的な温度を検知できる場所に据付けてください。
  - ・リモコンの温度センサ付近に他の配線がない場所に据付けてください。(配線がある場合、リモコンが正確な室温を検知できません。)

#### お願い

リモコン設置壁面の表面付近の温度と実際の 室温との差が大きい場所に据付けないでくだ さい。 検知した室温と実際の室温を誤検知するおそ れあり。

故障の恐れをなくすため、水や油がリモコン にかかる場所や結露が発生する環境や腐食性 の環境にはリモコンを据付けないでください。 変形や故障を防止するため、直射日光の当た る場所や周囲温度が 40℃ 以上・0℃ 以下に なる場所に、リモコンを据付けないでくださ い。

リモコンを導電性があるところ(塗装してい ない金属面など)に据付けないでください。

#### (2)据付スペース

リモコンをスイッチボックス・壁面のどちらに据付ける場合でも下図に示すスペースを確保してください。スペースが不足するとリモコンを外しにくくなります。

また、リモコン正面側には操作ができるスペースを確保してください。



#### (3) 据付工事

据付工事には「スイッチボックスを使用する場合」と「壁面に直接 据付ける場合」があります。据付方法に応じて工事を行ってください。

- ① 壁面に据付け用の穴を開ける。
  - スイッチボックスを使用する場合
    - ・壁に穴を開け、スイッチボックスを据付けてください。
      ・スイッチボックスと電線管を接合してください。
  - 壁面に直接据付ける場合
  - ・ 壁に穴を開け、リモコンケーブルを通してください。
- リモコンケーブル引き込み口をシールする。
  - スイッチボックスを使用する場合
     ・ スイッチボックスと電線管の結合部のリモコンケーブル引込口をパテでシールしてください。

### 配線引込口をパテでシールすること。

・露・水が浸入すると、感電・故障・火災のおそれあり。





指示を実行



#### ④ リモコンケーブルを下ケースの端子台に接続する。

リモコンケーブルを下図のように加工し、端子台に適切に接続してください。リモコンケーブルの シースをむきとった部分がケース内に納まるよう、リモコンのケーブルを固定してください。

※ シールド線(MVVS)を使用する場合、シールド部が製品内でショートしないようテープなどで 絶縁処理を行ってください。



単位:mm









■ 壁面に直接据付ける場合

・リモコンケーブルを通した穴をパテでシールしてください。 お願い

| ケーブルやシースの切屑が端子台に入らないようにす      |
|-------------------------------|
| るここ。<br>• 感電・ショート・故障のおそれあり。   |
| 配線を端子台に接続する際に圧着端子を使用しないでください。 |
| • 基板と接触し故障のおそれあり。             |



#### ⑤ 下ケースを据付ける。

下ケースを2箇所で固定してください。

- スイッチボックスを使用する場合
   ・ 下ケースをスイッチボックスへ据付ける場合は必ず2カ所固定してください。
- 壁面に直接据付ける場合
- ケーブルを溝に通します。 下ケースを壁面へ据付ける場合は必ず2カ 所固定してください。
- トワースを壁面へ話的ける場合は必ずと力 所固定してください。
   配線により壁面からリモコンが浮くことを 防止するため、2カ所を必ず固定してくだ さい。(モリーアンカーなどを使用して固定 してください。)





#### お願い

ネジを締めすぎないでください。 ・ 損傷するおそれあり。 下ケースに穴を開けないでください。 ・ ケース損傷のおそれあり。

#### ⑥ 配線穴を加工する。

- ■壁面に直接据付ける場合(リモコンケーブルを壁面に這わす場合)

  ・上ケースの内側薄肉部(右図の塗潰し部)をナイフ・ニッパーなど
  - こう一久の内側海肉部(石図の塗漬し部)をディン・ニッで切り取ってください。
  - 下ケース背面の配線溝に通したリモコンケーブルをこの部分から取り出します。



#### ⑦ 上ケースのディップスイッチを設定する。

1 グループ中でリモコンを2 台利用するときに、ディップスイッチを設定します。

1 グループ中でリモコンを 2 台利用するときに、下記で示すディップスイッチ No.1 を使って、主および従のリモコンを指定します。

- ・1 グループにリモコンを1 台のみ接続するときには、そのリモコンは常に主リモコンになります。1 グループにリモコンを2 台接続するときには、片側を主リモコン、もう一方を従リモコンに設定します。
- ・工場出荷時の設定は、「主」です。
- ペアリモコンで使用する時には、必ず設定が必要です。ペアリモコンのうち1台を従リモコンに 設定してください。

ディップスイッチの設定

上ケースの裏にディップスイッチがあります。リモコンの主 / 従およびその他の機能の設定は、このディップスイッチを使って行います。通常は、SW1の主 / 従の設定だけを行います。(工場出荷時は、SW1、2、および 3 がオン、SW4 がオフになっています。)

| SW No. | スイッチの意味              | オン | オフ | コメント  |
|--------|----------------------|----|----|---|
| 1      | リモコンの主 / 従設定         | 主  | 従  | 1 グループのリモコン2 台の内の片側を「オン」に設定する。                |
| 2      | 温度表示単位の設定            | 摂氏 | 華氏 | 温度を [ 華氏 ] 単位で表示させるときには、「オフ」に設定する。            |
| 3      | 自動モードでの冷房 /<br>暖房の表示 | あり | なし | 自動モードで「冷房」および「暖房」を表示させたくないときに<br>は、「オフ」に設定する。 |
| 4      | 室温表示                 | あり | なし | 室温を表示させたいときには、「オン」に設定する。                      |





#### ⑧ 上ケースに配線する

上ケースのソケットに、下ケースのコネクタを接続します。



#### お願い

| 上ケースから基板保護シートや回路基板を取 |
|----------------------|
| り外さないでください。          |
| • 故障のおそれあり。          |

| 上図で示すように、上ケースをケーブルにぶ  |
|-----------------------|
| ら下げないでください。           |
| • 断線し、動作に支障をきたすおそれあり。 |

#### ⑨ 配線をクランプにはめる。

#### お願い

| 記録をクランプに固定し、端子台に無理な力。 |
|-----------------------|
| 記録をノノノノに固定し、蛹」口に無珪なり  |
| が加わりた―ブルが断娘することがたいとう  |
|                       |
| にします                  |
|                       |



#### ⑩ 上ケースを下ケースに取り付けます。

固定用のツメが、上ケースの上部に2カ所あります。 このツメ2カ所を下ケースに引っ掛けて、上ケースをはめ込みます。ケースがしっかりと取り付けられていて、浮きがないことを確認してください。





刃幅が 3 ~ 5mm のマイナスドライバーを、リモコン下部のツメ 部分に差し込み、引っかかっているツメを外します。上ケースを手 前上に引いて取り外してください。



リモコンケーブルをリモコン上部から出す。

#### お願い

| マイナスドライバーの先端をツメにはめ込ん<br>だ状態で強く回転させないでください。<br>• ケースが損傷するおそれあり。 |
|--|
| マイナスドライバーを強く差し込まないでく<br>ださい。<br>・ 基板が破損するおそれあり。                |
| マイナスドライバーは刃幅 3 ~ 5 mm のも<br>のを使用してください。<br>・ ケースが損傷するおそれあり。    |

### 5 試運転

- 1. 試運転をおこなう前に、必ず室内ユニットの据付工事説明書の「試運転」項目を参照してください。
- 2. 
  第次の ボタンおよび 金 編/TEMP ボタンを同時に2秒以上押すことにより、試運転が行われます。
- 3. 熟修 ボタン操作により試運転は停止します。
- 4. 試運転中に異常が発生した場合には、室内ユニットの据付工事説明書の「試運転」項目を参照し てください。



- 6 換気設定
  - ロスナイまたは外気処理ユニットとの連動動作が必要であるときのみ、この設定を行って ください。
  - 集中コントローラが接続される場合は、集中コントローラより設定してください。

ロスナイまたは外気処理ユニットを登録したい場合にこの操作を行い、リモコンが制御する登録済み ロスナイまたは外気処理ユニットの確認、または登録済みロスナイまたは外気処理ユニットの削除を 行います。

以下では、アドレス 05 の室内ユニットおよびアドレス 30 のロスナイまたは外気処理ユニットを例 として用いて、設定方法を説明します。

[設定方法]

- ① リモコンの 熟惚 ボタンを使って、エアコンを停止させます。
- ② 「\$」)および ▼室温/TEMP のボタンを同時に2秒間押し続けます。下記のような表示が表れます。 現在室内ユニットに接続されている登録済みのロスナイまたは外気処理ユニットのアドレスをリ モコンが確認します。



- ③ 登録確認結果
  - 室内ユニットのアドレスと登録済みのロスナイまたは外気処理ユニットのアドレスが交互に表示されます。



< 室内ユニットのアドレスおよび室内ユ ニット「IC」であることが表示されます>



<ロスナイまたは外気処理ユニットのアド レスおよびロスナイまたは外気処理ユニッ ト「LC」であることが表示されます >

- ロスナイまたは外気処理ユニットが登録されていないとき



④ 登録が不要であれば、 **⑤** → および ▼ <sup>2</sup> ■ のボタンを同時に 2 秒間押し続けることによって、登録操作を終了させます。

ロスナイまたは外気処理ユニットを登録しなければならない場合には、**<1.登録方法>**へと進んでください。

他のロスナイまたは外気処理ユニットを確認したい場合には、<2. 確認方法>へと進んでください。登録されているロスナイまたは外気処理ユニットの登録設定を解除する場合には、<3. 解除方法>へと進んでください。

#### <1.登録方法>

- ⑤ ロスナイまたは外気処理ユニットと連動運転させる室内ユニットのアドレスを、▲ 室温/TEMP. および ▼ 室温/TEMP. ボタンを使って設定します。(01~50)



室内ユニットのアドレスロスナイまたは外気処理ユニットのアドレス

⑦ 読作ボタンを押し、室内ユニットのアドレスとロスナイまたは外気処理ユニットのアドレスの 組み合わせを登録します。

- 登録完了表示

室内ユニットのアドレスと「IC」、およびロスナイまたは外気処理ユニットのアドレスと「LC」が、交互に表示されます。



- 登録エラー表示

アドレスが正しく登録されない場合には、室内ユニットのアドレスと[BB]、および登録したロスナイまたは外気処理ユニットのアドレスと[BB]が交互に表示されます。



登録した室内ユニットまたはロスナイまたは外気処理ユニットが存在しないことが原因で、登録が 行えません。

または、他のロスナイまたは外気処理ユニットが登録対象の室内ユニットに既に登録されていることが原因で、登録ができません。

#### <2. 確認方法 >

- ⑧ 確認を行いたいロスナイまたは外気処理ユニットが接続されている室内ユニットのアドレスを、
   ▲ 室温/TEMP.)および ▼室温/TEMP.)ボタンを使って設定します。(01~50)
- ③ 読得 ボタンと えん ボタンを同時に2秒間押し、設定した室内ユニットのアドレスに登録されているロスナイまたは外気処理ユニットのアドレスをチェックします。
  - 確認終了画面(ロスナイまたは外気処理ユニットが接続されているとき) 室内ユニットのアドレスと「IC」、および登録されているロスナイまたは外気処理ユニットのア ドレスと「LC」が、交互に表示されます。



- 確認終了画面(ロスナイまたは外気処理ユニットが接続されていないとき)



- 登録された室内ユニットのアドレスが存在しないとき。



#### <3. 解除方法 >

接続されている室内ユニットおよびロスナイまたは外気処理ユニットの登録設定をリモコンによって解除したいときに、この操作方法を使用します。

- ⑩ 解除したいロスナイまたは外気処理ユニットを確認し(<2. 確認方法 > を参照してください)、 室内ユニットおよびロスナイまたは外気処理ユニットの確認結果を表示させます。
- ▲ 室温/TEMP:ボタンと ▼室温/TEMP:ボタンを同時に2秒間押すと、設定した室内ユニットに登録されているロスナイまたは外気処理ユニットアドレスの登録設定が解除されます。
  - 解除完了の表示

室内ユニットのアドレスと「--」、および登録済みのロスナイまたは外気処理ユニットのアドレスと「--」が交互に表示されます。



- 解除エラーの表示 解除が正常に行われなかったときには、下のような表示が表れます。



## 7 マルチエアコンの機能選択

マルチエアコンの機能設定を変更する必要がある場合のみ、この設定を行ってください。 本リモコンから各室内ユニットの機能を必要に応じて設定してください。

注:以下のステップを実行して変更した設定は、必ず書きとめておいてください。

#### ■ 室内ユニットの設定値の設定

- ① 
  歌/
  学 ボタンを押して、室内ユニットの運転を停止させます。
- ② (整整)および ( えん )のボタンを同時に2秒以上押し続けて、現在の設定を確認します。
- ③ 室内ユニットからの応答があると、現在の設定が表示されます。応答がなければ、何も表示 されません。



- ④ ▲ 室温/TEMP: および ▼ 室温/TEMP: ボタンを押し、設定したい室内ユニットのアドレスを設定します。 (1~50)
- ⑤ (熱腔)ボタンを押してから、(▲ 室温/TEMP)および ▼室温/TEMP, ボタンを押し、設定したい機能設定 No. を設定します。(000 ~ 255)
- ⑥ (熱酸)ボタンを押してから、(▲室温/TEMP)および(▼室温/TEMP)ボタンを押し、設定したい機能設定値を設定します(00~15)。
- ⑦ 熟得 ボタンを押して、設定を確定させます。

⑧もし設定を変更する必要がある場合には、ステップ④から⑦を繰り返します。 設定を終了するには、(
漸感)および(
\$▲ のボタンを同時に2秒以上押し続けます。



#### ■ 室内ユニットの機能設定 No. のチェック

① 前のページの操作方法 A を行います。

- ② ▲ 室温/TEMP: および ▼ 室温/TEMP: ボタンを押し、チェックしたい室内ユニットのアドレスを設定します。(全て、1~50)
- ③ (
  <u>mode</u>)ボタンを押してから、(▲ <u><u>s</u><u>a</u>/TEMP</u>)および (▼<u><u>s</u><u>a</u>/TEMP</u>)ボタンを押し、チェックしたい機 能設定 No. を設定します。(000 ~ 255)
- ④ 「Sun ボタンを押すと、現在の機能設定 No. が表示されます。

⑤ 設定をチェックするには、ステップ②から④を繰り返します。 チェック操作を終了するには、「熟課」および「 𝕵 𝔄 のボタンを同時に2秒以上押し続けます。



8 自己診断

本リモコンを使って、各ユニットの異常履歴を検索します。

①自己診断モードに切り替えます。

<sup>B</sup> ▲ <u>ga/TEMP</u> および © ▼ <u>ga/TEMP</u> ボタンを押すと、アドレスが 01 と 50 の間で増減します。自己 診断させたいアドレスにその値を設定します。



③ 自己診断結果の表示 < 異常履歴 > (異常コードの内容については、室内ユニット据付工事説明書またはサービスハンドブックを参照してください。)



④ 異常履歴のリセット

異常履歴は、③「自己診断結果の表示」で表示されます。 ◎ 【 え 」 ◎ 】 ボタンを 3 秒以内に 2 回続けて押すと、自己診断対象アドレスが点滅状態になります。 異常履歴がリセットされると、下記のような表示が表れます。 異常履歴のリセットが失敗すると、異常内容がもう一度表示されます。



⑤ 自己診断のリセット

次のように2通りの自己診断リセット方法があります。

→ 自己診断がリセットされて、自己診断前の状態に戻ります。

◎ 読得 ボタンを押します。→ 自己診断がリセットされて、室内ユニットが停止します。(操作が禁止されているときには、この操作は無効になります。)

9 リモコン診断

本リモコンから室内ユニットを制御できないときには、本機能によりリモコン診断を行ってください。

 まず、電源マークを確認してください。 リモコンに正常な電圧(DC 12V)が印加されていない場合、電源マークが消灯します。
 電源マークが消灯している場合は、リモコン配線、室内ユニットを点検してください。



② リモコン診断モードに切り替えます。
 ③ ▲ 室温/TEMP. ボタンおよび ③ ● ● ボタンを同時に 5 秒以上押すと、下記の画面が表示されます。
 ④ ● ● ボタンを押すと、リモコン診断を開始します。



③ リモコン診断結果< リモコン正常時 >



リモコンに何も問題がありません。他の原因を調査してください。

<リモコン不良時>



(異常表示 1)「NG」が点滅→リモコン送受信回路不良です。

リモコンの交換が必要です。

#### 本リモコン以外に問題があるとき



(異常表示 2)「6833」、「6832」が点滅→送信不能

伝送線にノイズがのっている、あるいは室内ユニットや他のリモコンの故障が考えられ ます。伝送線および他のリモコンを調査してください。



(異常表示 3)「ERC」およびデータエラー数が表示される→データエラー発生

「データエラー数」とは、リモコンの送信データのビット数と実際に伝送線に送信された ビット数の差を示します。この場合、ノイズなどの影響で送信データが乱れています。 伝送線を調査してください。



④ リモコン診断のリセット

⑧ ▲ 室温/TEMP.]および ◎ 「 いん つ のボタンを同時に 5 秒以上押すと、リモコン診断を終了し、[HO] および運転ランプが一定時間だけ点滅した後、自動的に再立上げが行われます。

三菱電機株式会社 冷熱システム製作所 〒640-8686 和歌山市手平6-5-66 2073)436-2111(大代表)

